

愛教大の「いま」にであえる情報誌



国立大学法人
愛知教育大学
AICHI UNIVERSITY OF EDUCATION

AUE Letter
AICHI UNIVERSITY OF EDUCATION

あゐる

VOL. 4

2021
WINTER

特集
附属学校と大学の連携





附属岡崎中学校での教育実習

愛知教育大学には、附属学校として名古屋地区に幼稚園・小学校・中学校、岡崎地区に小学校・中学校・特別支援学校、刈谷地区に高等学校と、計7学校園があります。大学の教育実習を附属学校園で実施するのももちろんのこと、そのほかにも教育、研究の両面で連携しています。今回の特集では附属学校と大学の連携についてご紹介します。

※表紙の写真は、毎年恒例となっている、附属幼稚園の園児による、大学の自然観察実習園でのさつまいも掘り体験の様子です。大学の幼児教育選修と技術専攻の学生がお手伝いしました。

名古屋

コロナ禍を契機とした 教育デジタル化の推進

附属名古屋中学校 × 大学

令和2年4月、全国の学校と同じように、附属名古屋中学校（以下、附中中）でも、新型コロナウイルス感染症の影響で、休校とせざるを得ない状況となりました。この授業ができない状況にどのように対応していけばよいか—その解決方法として附中中が選んだのが、教育のデジタル化でした。当初は、生徒たちとつながる手段は電話と緊急連絡メールだけで、「どのように課題を配付して提出してもらおうか」からの試行錯誤だったと、附中中でデジタル化の中心となった松元裕樹先生（数学）はその時を振り返ります。

附中中ではまず、生徒とつながる手段として、Google Classroomの導入を決定しました。しかし、附中中の特徴である生徒同士の話し合いを中心とした授業を行うには、双方向性が必要でした。オンライン職員会議で、複数の会議ツールを実際に使って試し、生徒にも使いやすくと判断したウェブ会議サービスZoomで授業を行っていくことに決めました。

機器が不足していたり、分からないことだらけだったりという大変な状況でしたが、「授業ができなかったモヤモヤが解消して、学校全体で前向きに取り組めました」と松元先生は話します。8月には研究授業としてオンライン授業公開を行うまでとなりました。

実は松元先生は本学教職大学院に現職院生として在学中です。指導教員である数学教育講座の飯島康之教授は、会議ツールの選定や、研究授業実施での良き相談相手となりました。また、ゼミでもオンライン授業の試行をしたり、他の院生たちと各地区の状況について情報交換を行ったりしました。飯島教授は附中中での取り組みについて「公立学校のデジタル化が進



オンライン授業の様子（数学）

まない中、附属学校として何をすべきか、ということ意識して進めることができたのでは」と評価しています。

松元先生は今後について、「これからもオンラインに切り替わる可能性があるので準備しておきたいです。それとともに生徒と日常的にもデジタルでのやりとりをしていきたいと思います。デジタルにすることで容易になることも、かえって分かりにくくなることもどちらもありますが、GIGAスクール（※）の端末が入ったら、デジタルの良い部分を取り入れ、一人一人の進度に合わせた課題の作成など、率先してやっていきたいと考えています」と話しています。

※GIGAスクール構想：1人1台の端末と高速大容量の通信ネットワークを整備し、子どもたち一人一人に最適化された教育ICT環境を目指す文部科学省の施策。

岡崎地区全体で進める インクルーシブ教育

附属特別支援学校 × 大学

平成30年10月に附属特別支援学校(以下、支援学校)内に「インクルーシブ教育推進センター」が設置されました。本センターは、愛知県内外の学校と連携し、共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育を推進することを目的として、研修の実施や教材・教具の紹介、相談業務、書籍貸出などを行っています。

岡崎地区での共生教育は「インクルーシブ教育」という言葉がなかったころから実践されています。附属岡崎小学校と支援学校の児童生徒と一緒にイモの栽培をしたり、附属岡崎中学校と音楽や体育の活動を行ったり、教員が支援学校を一日体験して、気付いたことを持ち帰ってもらったりもしています。また、支援学校では、教員免許状取得に必要となる「介護等体験実習」で、本学学生を年間700~800人受け入れています。全国的に見ても突出して多い受入人数ですが、実習を通して障害のある児童生徒に対する見方などが変わる学生も多く、インクルーシブ教育の推進に向けた種まきのようなものとなっています。

また、これまで研究活動や相談事業等、大学と支援学校は密接に連携を図ってきましたが、センター長に特別支援学校での教員経験を持つ、特別支援教育講座の小倉靖範准教授が着任し、さらに関係が深まりました。12月に地域に向けた研修として、小倉センター長を講師に、オンラインで実施した「自立活動セミナー」には、愛知県内全域から100人近い教員が参加しました。今後も、インクルーシブ教育推進センターを通して数多くの研修機会を提供していく予定です。

現在、支援学校の教員とともに、「知的障害特別支援学校における児童生徒の授業への自立的・主体的な参加を促すための授業改善」をテーマ



インクルーシブ教育推進センター長 小倉 靖範 准教授 (右)

インクルーシブ教育センター内の教材・教具(左上)と貸出書籍(左下)

に連携研究を行っています。特別支援教育が大切にしてきた「個に応じる」というボトムアップの視点に加え、社会参加と自立を目指し、「学校として何を教えるのか」というトップダウンの視点を融合した授業づくりを進めています。今後、支援学校やセンターを通して、インクルーシブ教育の理念だけでなく、研究成果を授業実践モデルとして地域に発信していく構想を持っています。そのために、地域の各学校と積極的に交流しながらネットワークを築き、オンライン会議システム等を使って情報交換をしていくことが重要であると考えています。

支援学校の川原三佳校長は、「特別支援学校の児童生徒たちが、将来、社会の一員として働いていくためには、通常学校の保護者や地域の方々と同校の存在を知ってもらい、サポーターを増やすための社会に向けた発信も必要」と話しています。

高校生の学習意欲と進路選択に 資する高大連携講座(スクール)

附属高等学校 × 大学

附属高校と大学では、平成20年度から高大連携講座(以下、スクール)の取り組みを実施しています。高校2年生の希望者を対象にして、年間計20講座の授業が行われています。

スクールの授業は、大学の授業と同じコマ90分間で行われ、その授業内容は、授業を担当する大学教員の専門分野です。また、受講者は文系・理系問わず幅広い分野の授業を受けることができるため、高校での教科の学びが大学でどう発展するのかというイメージを持つことや、各専門分野の詳細について理解することが期待できます。



スクールの実施風景

令和2年度のスクールで授業を担当する、外国語教育講座の松井孝彦准教授は、平成26年度まで本学附属高校で教鞭をとった後、平成27年度から大学教員として本学で勤務しています。附属高校教諭として生徒をスクールに送り出す側と、大学教員として受け入れる側の双方の立場を経験する松井准教授は、スクールの意義について、「高校生の学習意欲の向上や進路選択という点においても非常に貴重な機会であり、キャリア教育の一環ともいえます。スクールの受講を通して、自身の目標や進路を具体的に考えることができるようになり、それをかなえるために高校の授業を頑張ろうという意識を持つようになる生徒もいます」と話します。松井准教授の教え子の中には、スクール受講の後、本学に進学し、現在、学校教員として活躍している卒業生もいます。スクールは、大学の知的資源を活用した附属高校ならではの取り組みとなっています。



外国語教育講座 松井 孝彦 准教授

研究訪問

保健体育講座
縄田 亮太 講師
スポーツ科学・身体教育学

研究テーマを教えてください。

私の興味・関心は、令和における学校体育の意義です。現在、イェナプラン教育を踏まえた異年齢集団におけるボールゲームの学習プログラムの開発に取り組んでいます。学校は同年齢集団での活動が基本ですが、異年齢集団での学習活動に新たな価値を感じ、具体的な教材の可能性を模索しています。

研究の道に進んだきっかけは何ですか。

8歳から22歳までプレーしたバレーボールです。学生時代に、バレーボールが上手な選手は空中で相手の状況を把握する力が優れているのではないかという興味から、スポーツビジョンに関する研究に取り組みました。また、選手(トスをあげるセッター)として、どうすれば上手くなるのか悩んだ経験から、オーバーハンドパスのコツを力学的現象から探る研究をしました。研究は自ら身をもって経験してきたことの延長にありました。

研究の面白さは何ですか。

テレビゲームでいうとゲームクリアもゲームオーバーもないところです。ゲームクリアしたと思ってても新たな課題が発見できます。また、自らやめなければゲームオーバーはありません。スポーツでいうとボールゲームのようなところも面白いです。私の研究は調査して、仮説を立て、検証するアプローチです。目的達成に必要な人に協力してもらい取り組みます。ボールゲームはチームで相手を分析し、戦略を立て、検証し続けます。研究はバレーボールに似ているなとつくづく思います。



研究は身近なところに存在します。私にとって研究することは「バレーボールをプレーすること」に似ています。

愛教大生ピックアップ!

AUEパートナーシップ団体に認定!!

～天文愛好会CORE～

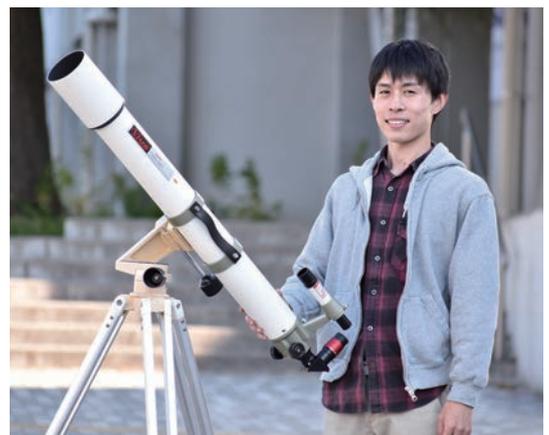
初等教育教員養成課程
理科選修 小野部 竜之輔さん

「生き物が好きだったので、生物領域を選択しました。天文はあくまで趣味の領域と思っていたのですが、どっぷりつかっちゃってますね」と、天文愛好会COREの会長小野部竜之輔(おのべりゅうのすけ)さんは笑いました。物心ついたころから空を見ることが好きで、幼稚園時代の将来の夢は宇宙飛行士だったそうです。小学2年生の時に、天体望遠鏡をご両親に買ってもらったことがきっかけで星の世界にはまりました。

天文愛好会COREは部員数約50人の天文サークルです。「星を楽しむ」、「天文を通していろいろな人と交流する」ことを目的に活動しています。月に1回開催される刈谷ハイウェイオアシスでの観望会には、多い時には500人の来場があるそうです。また、幼稚園や保育所、児童館などからの依頼があれば、出張プラネタリウムも行っており、そこで使う投影機とエアドームはなんと手作りです。もともと地学研究会として発足した部が40年前に天文一本となったCORE。昔の部員が作成した投影機とエアドームを長い歴史とともに受け継ぎ、毎年少しずつ改良を加えて使っています。

昨年度まではAUE学生チャレンジ・プログラムに応募して活動を続けてきましたが、より安定的な活動をしたいと「AUEパートナーシップ団体」に申請したところ、その活動が認められ、今年度認定されることとなりました。「大学に活動が認められてうれしかったです。これからは愛教大を背負って天文活動することとなります。教育大学の天文部として天文教育を普及させていきたいです」とこれからの抱負を語ってくれました。

教育大学の天文部として天文教育を普及させていきたいです。



AUEパートナーシップ団体認定証授与式の様子

プロジェクト紹介

【文部科学省委託事業】 大学出版会を活用した 地域参加型の「教職の魅力」 発信プラットフォームの構築



教職の魅力共創
教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業



第1回地域フォーラムの様子

みなさんは、教職にどのようなイメージを持っていますか？ 子どもと一緒にワクワク・ドキドキしながら、いろいろなことにチャレンジする仕事でしょうか？ それとも、難しい学習内容を面白く、分かりやすく教える仕事でしょうか？あるいは、子どもの成長を自分のことのように喜べる仕事でしょうか？ マスコミ報道から受けるマイナスイメージは、どのくらい影響があるのでしょうか？ 教員志望者が減少していることと何か関係があるのでしょうか？

このような疑問を解決し、教職の魅力を向上するために、令和2年8月に文部科学省から委託された本事業（教職の魅力向上に関する取組）では、野田敦敬学長を代表者として、フォーラムやアンケート調査から、多様な立場における「教職のイメージ」の現状を探り、課題を明らかにします。さらに、多様な教職の面白さや魅力を本学出版会（<http://www.auepres.aichi-edu.ac.jp/>）を活用して継続的に発信するための叢書シリーズ『教職の魅力共創』を企画し、来年度から刊行する予定です。11月には本事業のウェブサイトも立ち上げました（<https://www.aue-cocreate.jp/>）。ウェブサイトでは、進捗状況の報告、地域で活躍する先生方や学長のインタビュー動画の配信、リーフレットの発行、アンケート調査結果の報告を行っています。みなさんと大学が一体となって時代に合った教職の魅力を共に創りませんか。



本事業ウェブサイト



愛知教育大学出版会

クラブ・サークル紹介

馬術部

馬術部は、今年度で創部72年という伝統があります。日々、3頭の馬と共に学生大会に向けて乗馬練習に励んでいます。また、子どもたちの触れ合いイベントを定期的で開催するなど地域貢献にも力を入れています。今年度は、念願の全日本学生馬術大会への出場が叶い、秋には6人の新入部員を迎えることができました。厩舎の見学はいつでも自由にできますので、本学にお越しの際はぜひ馬を見に、お立ち寄りください。



落語研究会

私達落語研究会は、1年生3人、2年生3人、3年生3人、4年生2人の計11人で活動しており、落語だけでなく、漫才、コント、ピン芸、大喜利などお笑いに関することならなんでもやっています。年2回の大学祭での寄席のほか、地域のイベントや学校、老人ホームなどから依頼をいただいて出張講演をしています。M-1グランプリや落語の大会に参加する部員もいて、少人数ですが部員の熱量はすごく高いです。芸を通して仲間やお客さんと笑い合えるとても楽しいサークルです。

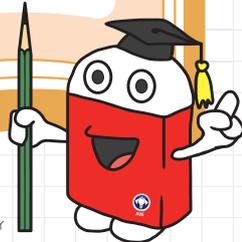


#

愛教大 ニュース NEWS



愛教ちゃん



エディ

理科教育講座星博幸教授が 「日本地質学会論文賞」を受賞

本学の理科教育講座星博幸教授が、2020年度「日本地質学会論文賞」を受賞しました。受賞の対象となった論文は日本海拡大に関して調査したものです。もとはアジア大陸の東縁にあったものが、西南日本は時計回りに、東北日本は反時計回りに回転しながら大陸より分かれて出来、それに伴い日本海が拡大したと言われており、星教授は過去25年間に報告されたデータをレビューすることにより、西南日本について、その回転がいつ、どの程度、どのくらいの速さで起こったのかを解析しました。

9月13日(日)には「日本地質学会2020年度顕彰・各賞表彰・記念講演」(YouTube Live配信)で受賞講演を行いました。



表彰状とメダル

6年一貫コースの学生が佐久島しおさい学校で 双方向型オンライン授業を実施

8月27日(木)・28日(金)、本学の6年一貫教員養成コースの学生が西尾市立佐久島しおさい学校で、双方向型オンライン授業を実施しました。1日目は、同校の中学生5人を対象に、情報モラルの授業を行いました。生徒たちは、ワークを通し、身近に存在するSNSの問題点について意見を交わしました。2日目は同校の小学3年生2人、4年生3人を対象とする社会科のスーパーマーケットを題材にした授業が行われました。

毎年同校を訪問し授業実践を行ってきましたが、今年度はコロナ対策のためオンライン授業となりました。新しい形の授業実践が成功し、その可能性を感じた2日間となりました。



オンライン授業の様子

美術選修・専攻の学生が制作した小学生向けの 造形指導動画をYouTubeで公開

8月7日(金)、美術選修・専攻の学生が制作した小学生向けの立体・工作の造形指導動画がYouTubeで公開されました。これは授業科目「彫刻制作I」(担当:美術教育講座永江智尚准教授)内で制作されたもので、刈谷駅前商店街との連携による取り組み「スペースAquaプロジェクト～お家deものづくり講座～」の一環でもあります。例年、対面型のワークショップを行っていますが、新型コロナウイルス感染症の影響により自宅で過ごさなければならない子どもたちに対する取り組みとして実施しました。動画は刈谷駅前商店街のYouTubeチャンネルで公開されています。



作品例

日本女性会議2020あいち刈谷(ミライク会議)連携 公開講座の収録を実施

「日本女性会議」は、日本で最大規模の男女共同参画に関する会議です。1984年に名古屋市で第1回会議が開催されて以来、全国各地で開催されており、第37回の開催地として刈谷市が選ばれました。2020年11月13日(金)～15日(日)に「日本女性会議2020あいち刈谷(ミライク会議)」が開催され、実行委員長を本学家政教育講座の山根真理教授が務めました。また、7月19日(日)、刈谷市内のホールにてオンライン講座の収録が行われました。「女性作曲家と知られざる名曲～お話と演奏～」と題し、音楽教育講座の國府華子教授によるピアノ演奏と、金原聡子准教授の歌唱を中心に、女性作曲家の紹介や作品にまつわるエピソードを交えた心温まる楽しい講座となりました。



國府教授・金原准教授の熱演

本学が取材協力した東映アニメーション制作の アニメーション映画「魔女見習いをさがして」の 試写会に参加

10月28日(水)、本学が取材協力した東映アニメーション映画『魔女見習いをさがして』の試写会が実施され、野田敦敬学長をはじめ、関係職員が参加しました。この映画は1999年に放送開始された人気のテレビアニメ『おジャ魔女どれみ』の20周年記念作品です。年齢も性格も住んでいる場所も違う3人が運命的な出会いをし、一緒に旅をします。3人の主人公の一人である「長瀬ソラ」は愛知県出身で教員志望の大学4年生です!

主人公たちが織り成すストーリーとともに、本学を知る方には背景にちらっと映る本学の施設も楽しめると思いますのでぜひご覧ください!



試写室前の野田敦敬学長(左)と後藤博明事務局長(右)

株式会社キャッチネットワークからマスク・支援金等を寄贈および刈谷市を紹介する多言語映像コンテンツ制作を実施!

株式会社キャッチネットワークから、コロナ禍にある本学の外国人留学生を支援するために、マスク2,000枚、支援金100万円の寄贈および留学生との刈谷市紹介コンテンツの制作をご提案いただきました。7月1日(水)に本学で行われた贈呈式では、同社の松永光司代表取締役社長より、今回の寄贈について「支援金は、オンラインで留学生に日本語を教え、交流する日本人学生への謝金などに活用していただき、また、刈谷市の案内や歴史などを留学生の現地の言葉で翻訳した多言語コンテンツを留学生と共同で制作することで、母国に帰って刈谷市の紹介をしていただくなど刈谷市と母国との交流になればと思います」と趣旨説明がありました。



マスクの贈呈(留学生と山田副社長)

映像コンテンツについては、同社が制作した映像を基に、留学生たちが英語、インドネシア語などの9カ国語に翻訳、ナレーションにも挑戦しました。映像では刈谷市の概要や魅力的な文化である刈谷アニメコレクション、スポーツ、万燈祭などを紹介しています。8月21日(金)、本学にて試写会を実施し、留学生たちは「日本といえば東京などを思い浮かべますが、刈谷もいい所です」などと話し、今回のプロジェクトに参加できたことを喜んでいました。



ナレーション収録の様子

附属図書館で本の読み方ワークショップ「あらしメソッドONLINE」を実施

10月14日(水)、附属図書館で、ワークショップ「あらしメソッドONLINE」を実施しました。「あらし読み」とは、国語教育講座の非常勤講師である牧恵子先生が開発している本の読み方で、「通読」ではなく本全体の概要を「俯瞰的」に見通すことから始めます。活字離れが進むなか、大学生に「新書」を使って必要な情報を獲得する力、学び方や生き方を考えるために読む力をつけようと提案するものです。ワークショップはZoomで行われ、参加者は各自選んだ新書を短時間で集中して読みつつ、事前に印刷した「あらし読みシート」に序章を箇条書き、興味ある章をマップに描きました。最後はペアになり読んだ内容を短く交流しました。

参加者は「オンラインでのあらし読みがなければ、読書の意欲が湧いてこなかった。この機会をいただき、本当にありがたい」と感想を述べています。



附属図書館での展示

「第14回科学・ものづくりフェスタ@愛教大」を開催

11月14日(土)、第一共通棟において、「第14回科学・ものづくりフェスタ@愛教大」を開催しました。今回で14回目となるこのイベントは、科学・ものづくり教育推進センターが主催する科学実験やものづくりの楽しさを体験してもらう毎年恒例の大人気イベントです。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、事前予約制で規模を縮小しての実施でしたが、本学学生や教員以外にも、本学附属高等学校や愛知県立豊野高等学校、愛知県立春日井高等学校などの連携校や分子科学研究所からの出展など、合わせて27ブースの出展がありました。当日は好天にも恵まれ、約400人の来場者でにぎわいました。



「サイエンス・アミューズメント・パーク」

AUEアカデミックカフェを開催

10月13日(火)、教育未来館で養護教育講座岡本陽准教授を講師として第20回AUEアカデミックカフェ「コロナ禍の消毒液の使い方」を開催しました。今回の講演は、一般の方にも関心の高いテーマとあって、約50人の参加者がありました。講演では、マスクや手洗い、うがいなどの感染症予防の効果に関する最新の実験結果が、自身の研究も含めて紹介されました。岡本准教授は専門的な話を、漫画やイラストを使って、時にユーモアを交えながら分かりやすく説明し、参加者からは「どんな消毒薬を使えばよいか分かった」「微生物の視点からの話などとても興味深く分かりやすかった」といった感想が寄せられました。今年度のAUEアカデミックカフェは、数学教育講座の飯島康之教授、社会科教育講座の土屋武志教授を講師にさらに2回実施します。



講演する岡本准教授

なごやっ子読書イベントに「よみっこ」が参加

10月18日(日)、名古屋市公会堂でなごやっ子読書イベント「親子で参加しよう! 素敵な音楽や人気キャラクターとともに楽しむ本の世界」が開催され、本学の子どもの読書応援団体「よみっこ」が参加しました。「よみっこ」はさまざまな学科の学生20人が所属しており、昨年度、本学のAUEパートナーシップ団体に認定されています。「よみっこ」のステージは「はじまるよ」の手遊びから始まり、4冊の読み聞かせが行われました。学生たちは、はっきりとしたよく通る声で子どもたちに語りかけるように絵本を読み、子どもたちもその世界にひきこまれていました。また体を動かしながらの読み聞かせでは、「ぺこっ」や「ぎゅっ」などの動きを子どもたちも学生たちと同じように体を動かして楽しんでいました。



てあそび「はじまるよ」

キャンパスめぐり



本学のキャンパスがある井ヶ谷地区は愛知県刈谷市北部の緑豊かな高台に位置しています。

冬は、木々の葉が落ちる中、花プロジェクトで植栽したパンジーが明るい色どりを添えます。

今年度は後期に入ってやっと学生たちがキャンパスに戻り、いつもの大学の風景になりました。



今後のイベント予定

2月16日(火)

第22回AUEアカデミックカフェ

3月23日(火)

卒業式

4月5日(月)

入学式

※卒業式と入学式は参加者を限定して実施する予定です。



愛知教育大学未来基金へのご寄付のお願い

愛知教育大学は、子どもたちの未来を拓く人を育てる「教育の総合大学」として多くの学生を迎え、送り出してきました。未来へ羽ばたく多くの学生を支援するため、皆様からのご寄附・ご支援をお願いいたします。

特に今年度は新型コロナウイルス感染症対策として、未来基金より困窮する学生への給付も行っています。ご協力をお願いいたします。

愛知教育大学未来基金の種類

- ・「AUE修学支援基金」経済的な理由で修学に困難がある本学学生を支援いただくための基金
- ・「教育研究基金」学生表彰、課外活動、留学生の交流等、幅広く本学学生支援いただくための基金

なお、本学への寄附に対しましては、所得税法、法人税法による税法上の優遇措置を受けることができます。詳細はホームページをご覧ください。

愛知教育大学未来基金

<https://www.aichi-edu.ac.jp/intro/kikin/about.html>



愛知教育大学広報誌「あえる AUE Letter」vol.4 (2021 Winter) 2021年2月発行



国立大学法人
愛知教育大学
AICHI UNIVERSITY OF EDUCATION

編集・発行／愛知教育大学 総務・企画部 広報課 広報・渉外係
E-mail/kouhou@m.auecc.aichi-edu.ac.jp
<https://www.aichi-edu.ac.jp>

